

盛岡の新しいとびら を開く市民の会

活動報告 2004

平成16年11月

盛岡市

はじめに

少子高齢・人口減少社会の到来，価値観の変化，長引くデフレ状況など社会経済情勢が大きく変化する中，市民ニーズは高度化かつ多様化しており，行政サービスのあり方について新しい視点が必要になっています。一方では，NPO法人やボランティア団体の活動が活発化するなど，市民の社会参画に対する意識が高まってきており，市民と行政が協働して，相互の役割について共通認識を持ちながら，効果的かつ効率的にまちづくりを推進することが求められています。

このような状況の中で，本市では，平成16年度から「もりおか夢100年シンクタンク事業」を展開することとし，その中で，市民の多様な意見をまちづくりに反映させることにより，市民起点による行政経営の実現を図ることを目的とする「盛岡の新しいとびらを開く市民の会」を設置し，今年度は7月・8月の2ヶ月を活動期間として，より良く暮らすためには市政がどうあれば良いのかという観点から，市が目指すべき方向やまちづくりの目標について，多くの御意見・御提言を頂戴しました。職員も机を並べて一緒に課題に取り組む中で，市民の方々から，まちをより良くしていきたいという盛岡への愛情や熱い想いを伝えられ，市民との協働への力強い手応えを感じるとともに，市民の皆さんが生活体験を通して得た知識や各世代の意見などを市政に反映させるため，市民と行政とが意見交換できる双方向の関係づくりの重要性を改めて強く感じたところです。

この活動報告を新しい施策展開や各分野の事業に広く活用し，市民起点による市政の実現に向け，より一層取り組みを強化していきたいと考えます。

盛岡の新しいとびらを開く市民の会 活動報告 2004

目 次

1	会の概要	1
(1)	会員	1
(2)	開催状況	1
(3)	運営要領	2
2	会議で出た意見・提言	3
(1)	いきいきとして安心できる暮らし	3
(2)	安全な暮らし	7
(3)	心がつながる相互理解	10
(4)	共に生き未来を創る教育・文化	13
(5)	活力ある産業の振興	17
(6)	環境との共生	22
(7)	快適な都市機能	25
(8)	信頼される質の高い行政	32
3	資料	39
(1)	設置要項	39
(2)	募集要項	40
(3)	募集案内	41
(4)	応募用紙	42

1 会の概要

(1) 会員

浅利 千枝子	阿部 良子	石川 徹	稲垣 孝夫
小田 富司	川村 雅美	木村 清廣	金野 万理
小杉 英機	近藤 光一	坂本 弘子	佐藤 清忠
鈴木 忠助	鈴木 るみ子	関 明	高井 慎二
高橋 司	高橋 敏明	立花 静枝	津久井 宏一
中島 房江	藤村 徳二	増澤 英子	松木 迪子
松本 光正	真山 重博	三浦 由紀夫	村木 宏彰
村谷 公基	谷地 秀子	山田 公一	

< 31名 / 五十音順 >

(2) 開催状況

	日時	テーマ	場所	人		日時	テーマ	場所	人
1	7月16日(金) 10時～12時	いきいきとして安心できる暮らし	市役所	10	13	8月7日(土) 13時～15時	活力ある産業の振興	市役所	8
2	7月22日(木) 10時～12時	安全な暮らし	勤労福祉会館	8	14	8月9日(月) 10時～12時	心がつながる相互理解	プラザおでって	4
3	7月23日(金) 18時～20時	環境との共生	青山地区活動センター	4	15	8月10日(火) 10時～12時	信頼される質の高い行政	市役所	10
4	7月25日(日) 10時～12時	信頼される質の高い行政	市役所	9	16	8月11日(水) 15時～17時	心がつながる相互理解	勤労福祉会館	4
5	7月26日(月) 10時～12時	環境との共生	市役所	7	17	8月18日(水) 13時～15時	快適な都市機能	市役所	11
6	7月27日(火) 10時～12時	安全な暮らし	市役所	6	18	8月18日(水) 15時～17時	活力ある産業の振興	市役所	11
7	7月28日(水) 18時～20時	心がつながる相互理解	市役所	7	19	8月19日(木) 10時～12時	環境との共生	市役所	5
8	7月31日(土) 13時～15時	快適な都市機能	市役所	8	20	8月20日(金) 10時～12時	信頼される質の高い行政	市役所	6
9	8月2日(月) 10時～12時	いきいきとして安心できる暮らし	市役所	6	21	8月26日(木) 18時～20時	いきいきとして安心できる暮らし	上田公民館	5
10	8月4日(水) 13時～15時	いきいきとして安心できる暮らし	市役所	5	22	8月28日(土) 13時～15時	安全な暮らし	市役所	4
11	8月4日(水) 15時～17時	共に生き未来を創る教育・文化	市役所	12	23	8月30日(月) 10時～12時	共に生き未来を創る教育・文化	プラザおでって	7
12	8月5日(木) 10時～12時	快適な都市機能	市役所	6	延べ参加者数				163

(3) 運営要領

盛岡の新しいとびらを開く市民の会 会議運営要領

会議を円滑かつ効率よく運営するために、次のとおり運営要領を定めます。

1 会議の目的

- (1) 市民の皆さんの多様な意見をまちづくりに反映させること。
- (2) 市民の皆さんとの意見交換の機会を増やすこと。
- (3) この会への参加を通して市政への関心を高めていただくこと。

2 会議の運営

- (1) 希望するテーマ及び参加できる時間帯に基づきグループ編成し、会議を開催します。
- (2) 進行役となる市の職員は発言が偏らないよう順序を含め、公平な運営に努めます。

3 会議のルール

- (1) 会議の時間は、2時間を原則とします。
- (2) 会の開始時刻を厳守してください。事情により会に遅刻、欠席する場合は事前に事務局に連絡してください。
- (3) テーマについて自由に発言していただきますが、多くの方が発言できるよう、簡潔なものとしてください。
- (4) 特定の個人や団体の批判や中傷は行わないでください。
- (5) テーマが狭小なものや特定地域・団体の個別利益を優先する意見は御遠慮願います。
- (6) 欠席者のうち、テーマに関して意見や提言がある方は「意見・提案シート」により、事前に事務局に対して意見等を提出することができます。提出された意見等は会議の席上で報告します。

4 会議の公開

盛岡市の審議会等の会議の公開に関する指針（平成12年5月31日市長決裁）に基づき、会議は全て公開を原則とし、傍聴も自由とします。

5 会議内容の取りまとめ

会議の内容は参加者に確認いただいたうえで、事務局が報告書の形式にまとめ、市長以下で構成する会議で市政の改革改善の検討材料として活用するほか、担当する関係課が事業の方向性を探るうえでの参考資料としても活用します。

2 会議で出た意見・提言

いきいきとして安心できる暮らし

<健康づくり>

充実した既存施設を上手に活用して、健康づくりに関するソフト事業に力を入れる。いきいき健康教室のような医療費の減につながる施策を増やすこと。

民間と協力して、市民の健康づくりへの関心を高める活動に力を入れる。

<医療体制>

市域の広い盛岡市では、在宅健康管理システムの普及を図るべき。

かかりつけ医制度の周知を図る。

地域医療体制の観点から、開業医と大病院の使い分けを徹底することが必要である。かかりつけ医制度の周知は、まだまだ足りない。

市内北部に夜間診療施設を整備する。

市内北部は大きい病院が少ないために、救急患者を受け入れる体制が弱い。夜間に救急車で、みたけ地区から河南病院へ運ばれたことがある。

- 市立病院 -

県立病院では、NPOやボランティアと協力して利用者のための病院づくりを進めているが、市立病院でも良いものは参考にして、取り入れる。

交通案内も含め、市民の病院としてもっと宣伝に力を入れる。交通の便が悪いというイメージが強い。

市立病院の利便性を高めるために、バス路線の拡充を進める。

<障害者福祉>

障害に対する理解が広まる施策に力を入れる。

カウンセリングに力を入れる。その際は、ボランティアの活用も考える。

障害者雇用制度があるが、企業はあてにならない。行政で手厚くしていくべき。

障害者に目線を合わせた事業を期待する。

施設のサービスに障害者の意見が反映されるシステムを確立する。

玄関に、車椅子や杖を使用する方が靴の脱ぎ履きをする椅子を置く。

玄関に、車椅子の車輪や松葉杖を拭く雑巾を用意する。

施設整備に際して、基本設計段階から障害者の意見が反映されるシステムを確

立する。意見の聴き方が統一されていない。

使い勝手よりもデザインが優先されている。

絨毯や大理石，傾斜や段差など車椅子や杖の使用を想定していない。

スロープはほとんど玄関の端にあるが，遠回りすることになる。道路と歩道の境の段差についても同じことが言える。

身障者用トイレとして区分されているが，男女各々のトイレの中に身障者用トイレがあれば良い。

盛岡駅前の歩道は，中心に「さんさ踊り」のプレートが置かれ，点字ブロックが道路側の端に追いやられている。結果として，自転車の駐輪により，点字ブロックの機能が果たせていない。

< 高齢者福祉 >

高齢者の自殺・虐待が増えてきており，高齢者を対象にしたカウンセリングの必要性が高まっていることから，カウンセラーの養成・配置に取り組む。

外に出ることに消極的な高齢者を社会活動に引き込む事業に力を入れる。

あいさつ運動，ミニデイサービス活動，利用時間を限定したバス料金の割引制度など，効果があると考えられる。

高齢者世帯の支援に向けた柱の事業であるシルバーメイト制度の更なる利用を促すとともに，メイトをしっかりサポートする。

地域のお年寄りが集う場所を増やす。

空き家を地域のお年寄りが集う場所として活用する。

個人経営の旅館が廃業するケースが最近目に付くが，デイサービスセンター的なものとして再生してみてもどうか。

グループホーム的な活動に対して規制緩和の形で支援できないか。有料で経営するため公的施設を使用できないようだが，市がモデルをつくり，その条件で運営する団体に施設を低額で開放するなどできないか。

社会福祉協議会などへの委託事業が有効かつ効率的に展開されているか，その実態をしっかりと把握すること。

デイサービスセンターなどでは，施設利用者の声をもっと聞くこと。弱い立場にある利用者に配慮する必要がある。第三者機関の評価も重要だが，内部評価として施設の管理者や利用者から意見を聞く必要がある。

レクリエーションや食事のメニューに配慮し，利用者が興味を持ち，QOL（クオリティオブライフ：生活の質）の向上に役立てるものにする。メニューの固定化などはあってはならない。BGMなども工夫できる。

看護師や介護士の資格を有するボランティアをもう少し有効に活用できないか。

<暮らしを支える制度（市営住宅，医療費助成など）>

現場を見て，実態をしっかりと把握する。家庭を回って，弱い人・困っている人の声を受け取り，生きたお金の使い方をして，世界一の福祉都市になるという前向きな取組みを期待する。

本当に困っている人に向けた予算を重点化して，バラマキにならないようにする。高級車に乗っている人が市営住宅に住んでいる。

独居老人はアパートを借りられない場合が多く，今後高齢者が増える状況の中，民間アパートを行政で借り上げるなどして，独居老人向け住宅を確保することが必要な時代がくるのではないか。現状では，個人の立場で面倒を見てくれる方に頼って解決しているケースが殆ど。

障害や高齢などで契約を結ぶことができない方に後見人をつける成年後見人制度があるが，利用するに当たって経費が多額にかかる。他都市では経費の一部を助成している例もある。

医療費支援体制を強化すべき。高齢者，障害者は健康に不安を持っている。

破産宣告の経費も無く，消費生活センターにも相談に行けない人への対策を講ずるべき。

市でセレモニーホール等の葬祭関係を行えば，低所得者層が助かる。

<子育て支援>

子育ての障害になっているものを把握して対策を講じる。

職を離れること・男性の協力を得ることなど，子どもを産み育てる環境に対して，女性がどのような不安を抱いているのかを分析し，施策に反映する。

育児休暇や再雇用制度の実行について，現在の経済状況では企業はあてにならない。行政が手厚くしていくべき。

育児休業制度を奨励している企業に補助金を支出するなど誘導する。

男性が育児休暇制度を利用しやすい環境づくりに力を入れる。

家族がいることの楽しさを教えることも必要ではないか。

<地域福祉>

行政任せではなく，地域でできることは地域で行えるよう，地域で何が起きているのかを整理し，何ができるのかを考え，実行に移す環境づくりを支援する。

町内会連合会と協力して，地域福祉を推進するリーダー育成に力をいれる。

5・6軒の範囲で，何かあったときに協力し合える体制づくりを進める。

地域福祉では社会福祉協議会の役割が大きい。社会福祉協議会は地域の現状を認識するとともに，やる気のある人を採用するなど活発に活動すること。

民生委員制度をPRして、その利用を促すとともに、委員の活動支援をしっかりと行う。地域に独居老人がいる場合は、シルバーメイトの利用はもとより、町内会の福祉部や婦人部と連携して情報を共有して支え合う必要がある。

グループホームと地域コミュニティの相互交流を行うなど、施設と地域が交流することでお互いの理解が深まり、地域福祉が推進される。

地域福祉計画は地域で実践していくものであり、地域を主体に策定すべき。地域福祉計画の策定状況が地域や現場に伝わってこない。

- 地域福祉推進会 -

地域福祉推進会の活動を活性化させる。

地域福祉推進会同士の情報交換の場を設ける。組織が形骸化しているところもあり、地域によって活動内容に大きな開きがある。

- ボランティア活動 -

ボランティア活動に対する理解が広まる施策に力を入れる。市との関わり方や無償から有償へなど、今までの見方を変えていく中で、活動範囲が広がり、活動内容が充実する。

高齢者への小さな支援活動を有償ボランティアの形で事業化する。

灯油タンクをアパートの階上へ運ぶなどの高齢者への小さな支援活動を有償ボランティアのような形で事業化できないか。小さな積み重ねが大きな結果を生む。

< 自然災害対策 >

盛岡市では近年大きな被災例が無く、災害に対する市民意識は低いと思われるが、何も起きないうちにきちんと準備しておくことの大切さを周知する。

避難誘導に関する行政・消防・警察など、関係機関の体制はどのようになっているのかを分かりやすく説明してほしい。

市のハザードマップには、高齢者など身体が不自由な人の避難経路や避難方法の説明が無い。注意すべき事項や避難例なども紹介すること。

降雨量毎（100 ミリ，150 ミリ，200 ミリ）の対処を示すなど、実際に即した内容を加えながら、ハザードマップをより実効性のあるものに育てていくべき。

独居老人など地域の情報が盛り込まれた、住民の手によるマップ整備に取り組んでいるところがある。

災害や急病などの緊急時にお互いに助け合う組織を整備したい。プライバシー保護との兼ね合いもあるため、町内会単独で進めるのは難しい。行政のサポートが必要である。

災害時の市民の連絡手段や問い合わせ先になる総合的な窓口を設ける。

通信連絡網などの情報伝達について、市の災害マニュアルがどのようになっているか、市民に周知する。

特に高齢者や子どもに見てもらいたい情報は、横文字は避けて、文字を大きくするなどの工夫が必要である。

災害時は独居老人が被害に遭うことが多いので、何かあった時の連絡先を隣人等に知らせておくなどの有効な参考例を紹介し、意識啓発に努める。

緊急時の情報発信としての携帯メールは非常に有効的な手段だと思うが、大地震などにおいてもきちんと機能するように備えておく。

市が導入した地理情報システム（統合型GIS）は先進的な取り組みなので、消防・電力・警察などの他機関の情報も取り込み、災害対策など活用の場を広げるべき。

ボランティアの派遣や受入れのノウハウを学んでおくために、他都市で災害が起きた際に、市が災害ボランティアを募集して派遣する。

災害時は物資の援助も大切だが、心のケアにも力を入れる。災害時は、平常心を失うことが多い。独居老人や身近に知り合いの少ない市外出身者への気配りも大切である。

市の地域防災計画は、これまでの市の施策が順調に推移したことを前提としており、行財政の行き詰まった現在では実態とかけ離れているため、見直しを積極的に行う。

< 消防体制 >

緊急時に警察・消防間で、たらい回しにならないように、よくある事例を公表して、それぞれの守備範囲を明らかにする。

自主防災組織の構築を急ぐ。

防災訓練に参加することがあるが、女性にも、炊き出しのほかに実際に消火器の操作方法や避難誘導など、危機に直面した訓練を経験させるべき。

消防車が来る前に、近隣の火災に地域で初期消火できるような方策・機器（家庭の水道を活用するものなど）を整備する。

消防団員がいち早く現場に駆けつけることができるように、火災発生の情報配信を将来的に携帯メールで行うようにする。

災害発生時、消防活動に駆けつける消防団員に対し、あらかじめ路上駐車を許可する証明書を発行する。

< 安全対策 >

安全対策として狭隘道路の電線地中化を進めるとともに、冬季排雪の路肩積み除雪を考慮した交通規制の大胆な見直しを進める。

市道管理（交通安全）、犯罪防止、省エネの面でも廉価なセンサーライトの設置が有効である。

護岸工事などを行う場合には、地域だけではなく全市的に意見を聴く。河川護岸など設計の工夫（なだらかな川底にするなど）により、子供の死亡事故などを防ぐことができるのではないか。

食の安全のためにも地産地消を進める。

遺伝子組替食品の問題は、市独自の対応も必要。

インターネットの害の部分を市民に認識させる。

- 防 犯 -

生活安全の窓口となる部署が必要ではないか。

携帯電話等を利用した悪質な犯罪が増加しているので、消費生活センターの機能を強化する。

自己責任も勿論大切だが、隣近所の監視の目が防犯に有効である。

市がコーディネートして、市民と警察の協力体制を築き、防犯意識を高める。

高齢者を狙った悪質な訪問販売などの情報を地区担当員，介護員などが把握しているケースがあるので，情報を警察・行政が共有連携するシステムを構築する。

東警察署のわんわんパトロールなどが効果をあげている。新聞配達やタクシーなど日常的に地域を回っている方々と協力して，防犯に努める。

防犯パトロールは，特定の役職の人だけではなく，広い範囲の人が参加する形で実施する。大通ではガーディアンエンジェルスを組織してはどうか。

ちょっと怪しいと思うことを通報できる「111番」のようなものを設けてみてはどうか。

高利金融の張り紙やピンクチラシなどを貼っているところを見たら通報する運動を広めたり，条例等で規制する。

暴走族の暴力性が高くなっている。小さいうちに芽を摘む意味でもキャンペーン的なものを実施する。

- 地 域 -

交通事故や非行問題など，地域に合わせた指導をする。地域によって身近な問題としての捉え方が違う。

防災，防犯上どこが危険かなどの地域のチェックシートを作り，住民が確認できるようにする。また，町内会報などで，地域の防災，防犯上の危険箇所を知らせる。

高齢者など情報が少ない人には，繰り返しの啓蒙活動が有効であるため，町内会でパンフレットを繰り返し回覧するなどして事故や事件を未然に防ぐ。実際に事件を防いだ成功例がある。

心がつながる相互理解

<地域コミュニティ活動>

全国的に見て、地域コミュニティがしっかりしているところは、犯罪や災害時の死亡者が少ない。全市的な取組みと地域的な取組みを整理して、市と地域の新しい関係を構築すべき。

コミュニティの再構築は、福祉・防災などの幅広い分野で重要なキーポイントになる。

組織体制を見直すことではなく、硬直化しているコミュニティ活動を柔軟に、活発に動くようにすることが大切である。

市の財政が厳しい状況の中、行政と地域がお互いに知恵を出し合いながら、一体となった取組みを行う必要がある。

公民館や地区活動センターで働く職員は、その地域で公募し、やる気のある人を集めて、施設活動を活性化させる。

市が目指すまちづくりのマスタープランをつくり、市民（町内会）がそれを目標にして地域活動を展開するスタイルにする。

世代を超えた視点で地域を考えられるようになるためにも、町内会・老人クラブ・子ども会が一体になった活動に力を入れる。

コミュニティにおいて、人助けと有償ボランティアを組み合わせた仕組みをつくり、灯油の階段配達や雪かきなど、お互いが助け合うシステムを取り入れる。

災害や急病などの緊急時にお互いに助け合う体制（緊急時の避難や独居老人の支援）を自主的に確立したいので、行政側もサポートしてほしい。プライバシー保護との兼ね合いもあるため、行政のサポートが必要である。

地域の空きスペースに家庭菜園を作ったり、交替で地域を夜回りしたりすることが、結果的に地域のコミュニケーションにつながるのではないか。地域コミュニティを根本的に見直す計画を示すべき。

- 町内会 -

地域のニーズに町内会の組織が追いついていない。町内会の再構築を今から始めないと、防災にしても地域福祉にしても立ち行かなくなってしまう。

市を支えているのは町内会だという認識を市が持ち、町内会を立て直すところから市全体を変えていくという意識を持つことが重要である。

市職員あるいは各部署が、それぞれ一つの町内会を担当する仕組みを参考に

きないか。(東京都足立区等で取り組んでいる。)

町内会の情報がうまく回るように工夫する。町内会で起こっている問題や情報が末端に下りてこない。

町内会活動は役員だけの活動ではなく、誰もが参加しやすい組織体制にする。

町内会活動を苦しんで行うのではなく、楽しんで行うシステムにする。

他の町内会の成功例を参考にしながら、町内会毎に活動の目標値を設定し、それに向かって活動するように、市が働き掛ける。

町内会でも、市でも、目標値の達成に向けた活動を評価する体制を確立して、次にいかしていく。また、各町内会の達成状況を公表して、次にいかしていく。

ごみ問題など、町内会の取組みとして成功している事例を広く紹介したり、表彰制度を設けたりして、地域間の競争意識を芽生えさせ、コミュニティの活性化を図る。

市は、町内会連合会に補助金を出しているのであれば、活動の成果が上がっているかどうかをチェックする。

予算を確保しておき、町内会から企画書を提出させ、コンペ方式で事業を採択してみてもどうか。

市の関係各課が町内会に下ろす年間の業務を前もって示すなど、計画性を持った町内会運営に協力する。

< 人権尊重 (男女共同参画, 平和・人権啓発) >

市の審議会における女性委員の比率は50%を目指すべき。

県内の妊娠中絶率が高いという問題に、行政・警察は真剣に取り組むべき。

盛岡は妊娠中絶率が高い。学校の先生による性教育だけではなく、医師や薬剤師等の専門家を学校教育のシステムに取り入れてはどうか。

男女の人権を尊重した性道德の教育が重要である。

人権問題などの悩みを相談できる相手先が分かるように、PRに力を入れる。

人権擁護の専門家(カウンセラーなど)を養成する。

暴力(ドメスティック・バイオレンスなど)から自分を守る活動をしているNPOがあるが、そのような専門家をもっと活用する仕組みをつくる。

登校拒否への対処については、カウンセラーと各家庭との間だけではなく、学校全体の問題として取り組めるようなシステムにする。

< 国際交流・地域間交流 >

国際交流を活発化するためには、交流の目的を明確に設定する必要がある。

国際交流について、どのような活動をし、それがその後どのような形でいか

されているのかも広報等で市民に伝える。

国際交流するためには、日本や自分が生活する地域の良さを知っておくべき。
外国人向けのインフォメーション施設を駅などの主要な建物に整備する。

インフォメーション施設が一目で分かる表示や連絡先を掲載したパンフレットの配布が重要である。

外国人向けのインフォメーション施設では、盛岡に来ている留学生などに働いてもらうのが良いのではないか。

留学生が盛岡での生活に困らないように相談窓口を設置する。

カナダは留学生等の受入態勢が整っていて、学校では補習までしてくれる。
盛岡でも、外国からの長期滞在希望者に対応できる受皿づくりを行うべき。

国際交流については、とかく欧米に目を向けてしまいがちだが、援助することも含めて、むしろアジアの開発途上国などに目を向けるべきではないか。

海外や先進地に派遣する際は、学ぶ目的をはっきりと持っている人を優先する。

市の職員を長期間海外や先進地に派遣し、戻ってきた時に成果をいかせる部署に必ず配置するような仕組みをつくってはどうか。

< 情報ネットワーク >

自分の家にパソコンがなくても、町内の施設に行けばいつでもインターネットを見られる環境を整える。

IT講習で使用し、現在使われていないパソコンや西部公民館のパソコンルームなどを市民に有効に利用させる。

市が開催するパソコン教室は期間が限定されている。無料でいつでも気軽に参加できる体制を整えること。

図書館のネットワークについて、大きい図書館は既に構築されているが、公民館や地区活動センターレベルの小さい図書室についても早く構築する。

ホームページ上での「電子会議室」を早く実施する。

< 学校教育 >

「ゆとり教育」による週5日制が始まる際の、家庭・学校・地域のつながりで子供を育成するという役割分担がいかされていない。

「ゆとり教育」で学校が週5日制になった分、授業では多くを詰め込まれ、宿題や様々な応募など授業以外にすることが多過ぎて、実際にはゆとりがない。

学習内容に子どもたちを引きつける魅力が乏しい。教育研究所のデータが十分生かされていないのではないか。

指導者の意識の持ち方や競い合いの不足などにより、小学校間で子どもたちの意欲に格差が広がっている。学区の撤廃など選べる教育も含めて対策を検討すること。

少人数教育について、教員免許がない人でも、経験豊かな人や学生などを教育の現場に取り入れて、先生をサポートする形で活用する。

地域活動や学校への啓蒙も含め、県や市の施策により、現在の子どもたちの「理科離れ」を防ぎ、科学技術を発達させる。

5時以降のクラブ活動の指導に社会人等を活用し、先生を学校の授業だけに専念させるなどして、多忙すぎる学校の先生の負担を軽減する。

空き教室が多くあるが、有効に活用するべき。例えば、現役を引退した方々をボランティアとして起用するなどして、世代間交流や躰教育を実施する。

道徳心に欠ける事件が目につくが、現在の道徳教育は、人と人の繋がりや人と自然の繋がりを読み物で教えるだけで、実際に身に付いていない。

平和教育について、沖縄や広島などの特定の地域以外でも、過去の戦争の事実を正確に子どもに伝えるなど、事実に基づいた平和教育をしっかりと行ってほしい。

今の平和教育は単発的であるため、例えば、幼稚園から中学校までそれぞれのレベルに合わせた、価値観を育てる位の一貫した教育が必要である。

平和教育は、先ず先生自身が勉強する機会を持つことが必要である。教え方も「平和」という切口より、日常ある子どもの喧嘩の解決方法などと関連させるのが良いのではないか。

今の国際交流は、短期の交流でしかないため、長期化して国際感覚を養う環境をつくるべき。また、子どものスポーツと文化の交流を優先的に行ってほしい。

国際交流は、良い情報だけでなく悪い情報も含め外国人をよく知ることである。地元学は、学びたい人も多いので、総合学習などに柔軟に取り入れるべき。

県内で高校中退者が 700 人程度いるが、進路指導がうまくいっていないのではないか。

中高生の居場所がないのではないか。中高生が活動できる場所や何かあったときの駆け込み寺のような場所が必要ではないか。既に有るとしたら、周知に力を入れること。

県立高校の再編が進む中、どういう人材を育てたいか方向性を示し、学科等を工夫するなどして、市立高校として独自性のある教育に取り組めないか。

<生涯学習>

少年指導員制度や生涯学習インストラクター制度の活用が見えてこない。

これまであまり実施されていなかった体験学習をもっと重点的に実施する。

大人が子どもと意思疎通を図ることが難しい状況になっており、家庭でも子どもに関心を持つことが必要である。

家庭教育がしっかり行われていないのは父親の責任が大きい。円満な家庭は、父親がしっかりしており、家庭に対して協力的である。

現代は核家族化が進み、躾教育をする祖父母の役割を果たす人が家庭にいなくなったため、地域の老人を活用することにより、その役割を補ってはどうか。

躾教育については、次のとおり。

まだ社会悪に汚染されていない年代の幼児教育が重要である。

道徳教育を否定する社会で育てられた現代の親が、自分の子どもに躾教育を十分にできるかは疑問である。

現代は核家族化が進み、躾教育をする祖父母の役割を果たす人が家庭にいなくなったため、地域の老人を活用することにより、その役割を補ってはどうか。

(上記のような)地域の老人の活用方法や指導方針等を地域の特性を生かして定め、実行してはどうか。

地域のあいさつ運動は、自分と他人の関係を理解し深めるための第一歩になり、登下校時の子どもの事件や事故の抑止力にもなる。このような活動を展開するためには、行政が町内会に一定の権限を与えてバックアップすることが必要である。

<スポーツ・レクリエーション>

温泉でも 400～500 円の料金で入浴できるのに比べて、市のプール利用料は 700 円もすることから、料金を下げて利用者を増やすことを考えてはどうか。

過去に肴町のプールが取り壊されたことについて、次の点で憤りを感じた。

プール取壊しの計画決定前の段階で、地元住民等への意見聴取がなかったこと。(市民に意見を聞く段階では、既に計画はほぼ決定されていた。)

プール取壊し前に、議員等も含め、市の関係者がプールの視察に来ていたが、利用者の声を聞くこともなく、見えないところで取壊しが決定されていたこと。

2万人の署名が集まったのにも拘らず、プールが取り壊されてしまったこと。

長年のプール利用者の間では仲間ができ、いわゆる、自然発生的なコミュニティができていたのが、それも行政の手によって壊されてしまったこと。

跡地に「杜陵小学校の屋外プールを作ることは決定していない。」と説明しておきながら、結局は市民開放のプールより利用率の低いそれを作ったこと。

< 芸術文化活動 >

今後、市の博物館施設などはアクセスしやすいことを最優先に建設する。また、既存の施設はアクセスしやすいように交通機関を整備すること。

施設の名称を決めることは、そこに住む住民が、自分たちの地域の歴史・文化を学ぶ良い機会だと捉えてほしい。

既存の文化施設は、運用に個性や動きが無く、興味を引かれない。動きがある「もりおか啄木・賢治青春館」などの運用を参考にできないか。

手紙館の利用を促すために、人が集まる企画展を実施したり、おでって利用者に施設をもっとPRする。

子ども科学館などの市の施設について、他都市の例も参考にしながら、せめて夏休みの期間だけでも子どもの入場料を無料にする。

文化振興事業団主催のコンサート等の入場料が高い。出演者の工夫などにより入場料を安くし、多くの市民が芸術文化に親しめる機会を増やしてほしい。

< 文化遺産の保護・活用 >

八幡の番屋のような古い建物を残すことは必要なことであり、その際には、歴史的建物と近代的建物の景観のバランスにも配慮するべき。

保存されているだけの歴史的建造物もあるが、一ノ倉邸は生きている。残すための活用方策が重要。

一ノ倉邸の道路沿いの看板などは、地元住民でも見づらく観光客はなおさらだと思うので、見る側の視点に立ったものを設置してほしい。

一ノ倉邸などでも様々な企画があると思うが、それをPRする部分が弱い。このような財産を観光の目玉にする意気込みで市民に活用されるよう努めるべき。

岩手公園の彦御蔵は、演劇等に貸し出すなど、お金をかけない範囲で積極的に活用するべき。トイレは管理事務所のものを利用できないか。

現在、市で志波城の復元を行っているが、是非、(賛否両論あるとは思いますが、要望として)盛岡城も復元してほしい。

行政施策として、多面的な歴史的環境をあまりお金をかけずに再発見してもらいたい。

旧九十銀行が国の重要文化財に指定されたことから、建物に限らず観光政策と教育政策の中で、この時代（明治末期）の先進性全般をもっと研究してほしい。

近代史の先人達やその思想に様々な手法でアプローチすることにより、面白さを加えた上で、それぞれの身近な町内に学習素材・観光政策として展開する。

活力ある産業の振興

< 産学官連携 >

廃材を利用して，大学や研究機関，技術をもった人が連携して，新産業（炭，木工品，工芸品を作成）を立ち上げてはどうか。

ノウハウや技術をもった人がたくさんいるので，その方々を掘り起こし，産業活動と結びつけてはどうか。

< 農林業 >

農業の集団化や企業化ということも取り入れて，農業人口を増やすなど，時代の流れに沿った改革・改善を進める。

農業に就きたくても農地取得などの際に様々な規制があり，簡単にはいかない。そのような規制を緩和すれば，農業人口も増えるのではないか。

休耕田など使われていない農用地を市で借上げて，家庭菜園として市民に貸し出すなどして，行政が農家と市民の間を調整することはできないか。

外来材より高額な県産材を消費させるには，外来材には無い良さをPRし，日常的に有効利用できる事例を示す必要がある。

県産材を使って家を建築した場合の助成などが無い限り，県産材を流通させることは難しい。

間伐材の2次利用，廃材のエネルギー化など，既存の農林業から生み出せるものは多い。

薪割りをスポーツ感覚として捉えて，それが健康にも繋がるということを子どもに教えるなど，農林業を違った側面から捉えてみる。

< 商工業 >

活気のある商店街には必ずリーダーがいる。そのような人材を育てることが大切である。

郊外の大型店建設にあたっては，市にとってのメリット，デメリットを十分検討し，既存の商店街と共存できるよう，幅広い方策をとる。

大通商店街の空き店舗については，地域活性化のため，有効活用されるよう，行政も一体となって取り組む。

桜山の商店街は，史跡指定など諸課題がある。今後のビジョンを示すことに市も協力すること。例えば，昭和レトロをコンセプトにまちづくりを進める方

向も考えられる。

早稲田大学周辺の商店街で実施しているエコステーションシステム（空き缶・ペットボトルを回収し，地域通貨を配布）と類似したシステムを盛岡でも試してみる。

盛岡市に専門学校が増えてきている。そのような専門学校の卒業生の受皿になるようなIT関連企業などが入るインテリジェントビルのようなものを造ってみてはどうか。

ITなどのソフト企業の他に新しいアイデア産業などを誘致する。

盛岡には，広告代理店の支店があり，不景気の中でも収益を上げている。このような優良企業を積極的に誘致すること。

- 中心市街地 -

中心市街地の商店街は，年齢層などターゲットを絞るとか，盛岡にいる技術を持った人材を集めるなど，郊外の大型店との違いを明確に打ち出し，独自にどのような商店街を目指すのかというビジョンを主体的に打ち出す必要がある。

中心市街地の商店街について，空洞化した後に復興したところを市が情報収集し，商店街に良い事例をどんどん提供していく。

市は消費動向を常に把握し，中心市街地の商店街が一気に崩壊しないように注意する。

< 観 光 >

盛岡市が観光都市だという認識を市民も行政ももっと持ち，市内を歩き，盛岡を知る必要がある。

観光案内の掲示板も含め，市内のサインを統一する。

市内の観光案内ボランティアにまちを良く知る高齢者を活用する。

観光雑誌に載るような飲食店が，お盆期間に店を閉めていた。客を受け入れる側が「観光都市」という認識が低いのではないか。

情報誌による知識をもとに盛岡の店を訪れる人も多く，そのような人が数年後に盛岡に来た時にも，その店が営業しているよう，恒常的な取組みが必要である。

もともと資源が無いところが，サービスを向上させて，人を呼び寄せることに成功した他都市の事例を積極的に学ぶ。例えば，山形の「そば街道」など。

温泉のことが全国的な問題になった件について，後からではなく，先取りして「盛岡の温泉は大丈夫です！」と情報提供する姿勢こそが大切ではないか。

現在，岩手大学の主催で，学生の父兄に呼び掛けて授業を見学してもらう企画を実施し，100名程度の参加をいただいている。この企画を基に，ホテル業界，

旅行業界，行政が一体となって，旅行商品を作ってみてはどうか。

「ぼくらの時代展」が大勢の人で賑わったのは，時代そのものがそのような“昔あったもの”や“恒常的なもの”を求めているからであり，そのコンセプトを継続的に展開してみてもどうか。

- 盛岡ブランド -

盛岡ブランドを考えるにあたっては，方法論（特産品をつくりだすとか，キャッチコピーを作る）を考える前に，盛岡らしさが何かという理念的なものを徹底的に市民を交えて話し合うべきではないか。

盛岡らしさが何かといわれると1つに絞れないが，「水」，「城下町」，「自然」などのキーワードで分類していくといろいろな良いところが見えてくる。そのことを行政も市民も知るべき。

特産品を作り出し，一時的に盛り上げるのではなく，市民一人一人が盛岡を愛し，まちに誇りを持つことのできる市民で溢れることが盛岡ブランドではないか。

盛岡と聞いてすぐにイメージできるような，観光資源（物産，観光名所など）を生み出す。

壬生義士伝のように，盛岡がテレビドラマや映画，小説，風景画などの舞台になるような働きかけを積極的に行う。

- 資源（物産） -

盛岡三大麺は，全国的に認知されてきているのだから，もっと活用する。

小さな博物館の取組みは，市民でも知らない人が多い。外からの観光客に見てもらっただけではなく，先ず市民が訪れてみるような企画を検討する。

- 資源（景観） -

観光で盛岡を訪れる方は，昔ながらの建物や街並み，自然を見にきていることを意識する。

中津川・北上川の景観は，いたずらに手をかけず美しく保全すべきものである。

マリオスに空中庭園があるが，多くの市民に知られていない。もう少し利用を促しても良い。

- 資源（啄木・賢治） -

啄木，賢治などの既にある観光資源を最大限に活用する。

啄木・賢治は，盛岡市にとって重要な観光資源である。もっと顕彰すべきであり，関わりのある場所などの案内表示を見直すこと。

- 資 源（歴史） -

放置に近い管理状態の遺跡・掲示板・記念碑・オブジェなどの見直しを積極的に進める。

盛岡市の文化や歴史などについては，市民を使ってどんどん検証する。それによって，市民も自分の住んでいる地域について学んでいく。（地元学）

旧九十銀行が国の重要文化財に指定されたことをもっとPRする。新しいことをやることも良いが，既にある観光資源を充分活用すること。

紺屋町の番屋を消防施設として使用しなくなった後は，観光施設として有効活用する。

- 資 源（祭り） -

市役所の庁舎に取り付けられるさんさ踊り垂れ幕がマンネリ化してきているので，工夫した方が良い。

さんさ踊りが，熟練された踊りでもなく，また，誰にでも踊れるほど簡単でもない中途半端なものになっていないか。「ただ，浴衣の色が変わるだけにしか見えない。」という観光客の声もある。さんさ踊りを見直しても良いのではないか。

「チャグチャグ馬コ」の公式な表記と呼び方について，市の見解を示すべきではないか。統一されていないと感じる。

- ハンギングバスケット -

ハンギングバスケットを花をただ飾るだけではなく，ソフト事業として捉え，花への水遣りも一つのパフォーマンスとして名物にする位の誇りを持たせる。

ハンギングバスケットを花き産業と結びつけることなども考える。

飾る花も，外から持ってきたどこにでもあるような花ではなく，市で作り育てた特異性のある盛岡らしい，盛岡ならではの花にする。

ハンギングバスケットを飾る際には，周りの景観に合う，合わないについてよく検討する。

区域的に「花のまち」があっても良いと思うが，市全体で進めるのであれば，市民に対する，花を大切に作る心の育成にも力を入れる必要がある。

- トイレ -

観光客などで利用頻度が高い岩手公園のトイレの清掃に力を入れる。

公共トイレについて，汚れが落としやすい素材でトイレを整備するなどの工夫も必要である。

冬期間の公共トイレの取扱いについて，盛岡と同じように積雪のある都市で参

考にできる部分があれば，視察に行くことも含め，その方法を取り入れる。

盛岡駅前の商店街有志が行った店のトイレを自由に貸す取組みはとても素晴らしい。このような取組みが全市的に広まるようにする。

- 交通関係 -

盛岡の顔である盛岡駅前の観光PRに力を入れる。例えば，「使われていない看板を有効活用する。」，「観光ルートマップを人がよく通る場所に置く。」，「駅の中の観光案内所をバス乗り場の方に移し，バス乗車の誘導と観光案内を合わせて行えるようにする。」など。

駅前のバスロータリーに簡易的な待合室を設置する。

案内が不十分でバス乗り場が分かりにくかったり，運転手などの不親切な言動で不快にさせるようなことがあってはならない。

市内の観光名所を周回するバス路線を整備してはどうか。通常の路線バスの機能も持たせ，高齢者にも優しいフラットバスにする。

ディズニーランドにあるように，すぐに乗り降りできるような，歩く位の速度で街中を走る観光バスがあったら面白い。

盛岡の特徴である川や河川敷の活用の仕方としては，駐車場にするとか，北上川の上流から下流まで行く水上バスを運行するとかのような思い切った発想があっても良い。

< 雇用対策 >

雇用のミスマッチを解消するためにも様々な分野のインターンシップを積極的に行う。

ジョブカフェでは，雇用のミスマッチを解消するため，適性検査カウンセリングや研修を実施し，成果をあげている。利用促進に向けて市も協力すること。

仕事の中身を体験させることも大事だが，その前に，働く事とはどういう事かということを考えてもらうことが，もっと大事ではないか。

若年者は，どんな職業があるのか分からない。情報をもっと広く提供すること。

環境との共生

< 生活環境の保全 >

護岸は，コンクリートで整備するよりも，自然を生かした整備を検討する。

環境ホルモンの安全性の問題や人体への影響について，十分な説明がなされていない。市でも正確な情報を提供すること。

霰石にダイオキシンの除草剤が埋められている。市の管理ではないが，水源となっているので，適切に対応すること。

< 自然資源の保護と活用 >

自分の地域を知って愛着を持っていくことの積み重ねが，環境保護につながっていく。そのために，学校の先生方も学校周辺のことをよく勉強して，環境についての知識と地域に対する愛着を平行して教えてほしい。

環境教育は理系的なアプローチが多いと思うが，郷土愛などの文系的なアプローチも必要である。

環境にこだわりを持って熱心に取り組んでいる，まちのエコロジストといわれるような人の話を子供たちが聴く機会を設けてみてはどうか。

昔，岩手は日本のチベットと言われたことがあったが，環境との共生が謳われている今となっては，最大のキャッチフレーズになるのではないか。

森林の公益的機能を認識し，保護・活用に力を入れる。

森林伐採をしてまで開発することに疑問を感じる。都市のマスタープラン（自然として残すところと開発するところの明確な市の考え）が見えない。

市は環境マネジメントシステムとしてI E Sを導入するようだが，I S Oと遜色ない効果が表れることを実践を通して示してほしい。また，毎年の更新に多額の経費を要することから，認証を取得し，ノウハウを得た段階で，市単独で進めても良いのではないか。

公共施設に太陽光などの新エネルギーを率先して導入する。

クリーンエネルギーは非常に重要だが，使いやすさと経済性が解決されなければ，普及しないのではないか。

日本の個人住宅の寿命は，欧米に比べて短過ぎる。廃棄物の処理という観点からも，長く使えるような工夫が必要である。

< 循環型社会 >

今以上に、子どもたちに対する環境教育（特にごみ問題）に力を入れる。その際は、クリーンセンターの見学など体験学習を積極的に取り入れること。

循環型社会の構築にあたっては、ごみが循環する仕組みを部分的ではなく全体的に住民に説明する必要がある。

循環型社会を目指して様々な施策を展開しているが、廃油処理一つをとってみても、書類手続のほかに、それと連動した現場監視という作業が十分なされていない状況では、処理の仕方が徹底されているとはいえないのではないかと。

ごみ処理に、どれだけ税金が使われているかをもっと周知する。

ごみの問題は、市がリーダーシップをとる。今は、町内会任せになっている。

きれいなまち推進員の活動が見えない。収集場所でごみの出し方を指導するなど、働きが見える形にすれば、地域で抱えている問題が改善するのではないかと。

街中をきれいにするということで、公園などのごみ箱が撤去されているが、修学旅行生など観光客が、ごみを捨てられずに困っている。ある程度は設置しておくべきではないかと。

- ごみ減量 -

ごみを減らすことを目的にポイントカード制のようなものを導入してはどうか。例えば、目標値をクリアすればポイントがたまり、たまったポイントにより、地域福祉推進会単位などで図書券やごみ袋が貰えるなど。

ごみの減量化については、ごみ袋の有料化など、ペナルティ的なものも取り入れることで、住民の意識の定着を図るのも一つの方法ではないかと。

- 資源ごみ -

資源回収する際に、「高齢者がごみの分別の指導をして、子どもが集まったごみを運ぶ。」など役割分担して行えば、同時に世代間の交流にもなる。

資源回収場所として、ストックヤードを整備してはどうか。

ごみとして出すが、まだ使える電化製品などをごみステーションの脇にストックして、欲しい人が持っていく仕組みを作ってはどうか。全市的に実施するのは難しいと思われるので、モデル的に実施してみてもどうか。

リターナブル容器の使用を奨励するよう、生産者・販売者・消費者の意識改革に向けた取組みを全国に呼び掛けて、スーパー等から使い捨て容器が姿を消すように働きかける。

- ごみ収集 -

清掃懇談会において、収集員の体験談、苦労している実情などを伝える。

ごみの分別やごみ出しの時間を守るなどについて監視の目が働くように、ごみステーションをあえて人目に付きやすいところに、設置してはどうか。

各戸収集を導入してはどうか。

ごみステーションを増やしてはどうか。

ごみステーションについて、ひな形となる衛生的で、機能的で、景観にもマッチするデザインを市が示してほしい。ごみステーションがきれいになることで、違反に出されるごみも減るのでないか。

拠点になるごみステーション（建て屋、有人）をモデルケースとして整備する。十分なスペースを有し、管理は民間委託も視野に入れ、排出受け入れの融通性や生ごみ処理も受け入れるなど考えられる。

深夜、早朝の収集も必要ではないか。

盛岡駅前のごみを観光客が来る前に収集できないか。

<まちづくり>

まちづくりについては、個々によって千差万別ある地域住民の意見をまとめることが重要であるが、まず、その前の段階として、市としてのビジョンを明確にする。

まちづくりにビジョンが無く、市のリーダーシップが発揮されていない。

市のいろいろな計画は、フォローも無く、連続性が無い。道路、下水など一度区切りをつけ清算する必要がある。

道路、橋や記念碑などについても、長年、錯誤記載や放置してきたものがあるので、前向きに改善、活用する。

市民起点のスローガンは良いが、大型プロジェクトなど計画段階からの市民起点が必要である。うやむやのうちに進んではならない。

再三にわたる呼び掛けにもかかわらず、都市計画に関する懇談会への出席者が少ないことについては、住民側の責任が大きい。

施設整備の際に、もっと市民から意見を聞くべき。

インフラを整備するだけでなく、運用が重要。行政は、市民に対して、運用についても声をかけるようにしないといけない。

ごみ処理に関するストックヤードの設置など個別の課題も都市計画全体の課題として、当初の計画段階から考えていく。

30年以内に三陸で大地震が発生すると言われており、その予測に基づいた都市計画のありかたや、各家庭の耐震構造診断など対策を講じる。

盛岡が好きな人の声をまちづくりに反映する。

まちづくりは「水と緑と自然の調和」がキーポイント。水と緑を前面に出し、岩手公園をシンボル空間としてはどうか。

先人の遺産とこれからつくるもので「盛岡らしさ」を生み出していく。また、中心市街地活性化の中で、「盛岡らしさ」をつくっていったらどうか。

「盛岡らしさ」と抽象的なことを言うが、定義も市民のイメージも共通したものは無い。

旧町名を復活させて、その町名にあった商売を始める起業家を支援するなどして、空き家の活用など賑わいを取り戻す方法もある。

金沢市では、旧町名を復活させることが市長の一声で始まったが、市民も賛同して良い方向に向かっている。

< 都市景観 >

都市コンセプトに合致した美しいデザインで街中を統一する。街のサインは、地元のデザイン会社を活用するなどして、もっと簡単に作ることができるはず。今あるサインも明度の工夫などで改善できる。

「プラザおでって」に対してそうであったように、都市景観に係る市民の意見は様々あるが、市のコンセプトが明確であれば、自然にその方向に向かうのではないか。

モニュメントなどには、デザイン的にどうかと思われるものもある。もっと市から注文をつけても良いのではないか。

バスのラッピングは、バス会社の収入に絡むのだろうが、美的でなく、景観を損なうものも多い。

- 自然 -

中津川は盛岡の顔であるが、2・3年前に大水があった時に中州の形状がすっかり変わり、富士見橋の下の流れも悪くなり、鮭が遡上しても行き場を失っている。どこまで人が手を加えて直すべきなのか、自然に任せるべきなのか、専門家の意見を聞く機会を設けてほしい。

下ノ橋の上流や下流に中州ができたのは、雪捨場の土砂が雪解け後に沈殿し、川の流れが変化したためではないか。土砂を元の川岸のラインに戻せないか。

中津川護岸の大きな石は、安全が目的かもしれないが、自然発生的にはあり得ないことであり、川の物語性が変えられているため、風景としては違和感がある。

- 街並み・建造物 -

歴史ある街並みをいかすようなまちづくりをする。

歴史的環境など良いものは点在しているので、固まり（つながり）があるようにしたい。

保存すべき建物とソフト（人）をセットにして、スモールオフィスなどとして活用すべき。皆が良かったという形で残したい。

保存されているだけの歴史的な建造物もある。残すための活用・方策が重要。一ノ蔵邸は生きている。

古い建造物でも今の技術で機能保存できる。武徳殿も残したかった。

いつの間にか無くなっているものもあるので、情報を提供してほしい。地元だけの合意で良いのか。地元以外（いろいろな視点）の考え方も聴いてみる。

B級の建物でも、残したいものがある。リフォームして地域で活用できないか。少なくともそういう建物をリストアップしておくべき。

古い街並みを残すときには、前面に出るところ（人目のつくところ）のみを残し、裏は住みやすい集合住宅（2～3階）を整備するなど、残す建物と住む建物のすみ分けが必要。

保存建造物に指定されたばかりに何もできなくなった方がいる。当時は行政が強かったのでできたのだろうが、有効に活用できなくなっている。

名所旧跡付近のごみ集積所の設置場所やデザインなども、広く意見を聴く必要がある。

一ノ倉邸前の舗装道路や駐車場のポールと黄色の鎖は、周囲の雰囲気と合わない。ポール等の更新時には、その必要性も含めて、検討してほしい。

< 居住環境 >

高齢化により歩道の除雪が更に重要になる。

小型除雪機の町内会への貸与は良いアイデアであり、町内では当番制で実施している。順番で使えない日もある位なので、もっと台数を増やしてほしい。

駅前では雪を捨てる際の排雪溝の蓋がとりにくく、また、蓋をとったままにすると車椅子が動けなくなるので、目の細かい網状のものをかぶせてはどうか。

駅前北通りでは、防犯のための巡回をしているが、裏通りの照明が暗く、事件も起きている。世帯数も増えているので、街路灯を付けられないか。

< 公園・街路樹 >

「緑の保全」を標榜していながら、道路建設で100年の古木を切ったりしており、横の連絡が悪く一貫性が無い。

道路整備等による樹木の伐採問題等については、地元住民だけに關わる問題ではないので、地元住民だけではなく、広く全市的に意見を聞くシステムをつくるべき。また、樹木を伐採する場合について、条例で一定の基準をつくるべき。

街路樹は、植生、歴史性も考えて樹種を選定し、全市的に街並みと調和するように、それぞれにテーマを持たせた剪定をしてはどうか。

掘削機と移植機により樹木を伐採することなく移動できるという記事を見たが、街路樹についてもこの方法を参考にできないか。

中心部に公園が少なく、人が集まる駅前バスロータリーなどにも緑が少ない。

市民との協働で、木や公園を管理してはどうか。例えば、市民の「サポート隊」が水と緑を守るなど。

ハンギングバスケットに触発されて自主的に花を飾る商店も出てきており、花のまちづくりを全市的にもっと推し進めてほしい。窓辺に花が飾られると人の目を引き、防犯にもなる。

上田交差点の西館ガラス店では2階部分に手入れされたきれいな花が飾られて、通る人の目を楽しませている。花のまちづくりが全市的に広まれば素晴らしい。

< 上水道 >

水道料金が低い。赤字になれば値上げするというスタンスではなく、コスト削減に努め、水道料金の値下げに努力する。

< 下水道 >

下水処理水を再利用する。

下水に薬品の混入がみられるので、対策を講じる。

< 市街地整備 >

高齢社会、少子化、不況などマイナス的要因を十分に配慮し、新たな開発を進めるだけでなく、どこを保存して何を残していくのかということ考えたまちづくりを検討する。

松園などの古くからある団地では、人口流出が目立ってきており、このままでは寂れていくことになる。市として対策を講じること。

大慈寺や鉈屋町などの貴重な街並みを残していくために、そこで暮らし、古いまちを守っていききたいという人（特に高齢の方）を集めてはどうか。その際は、ただ住みやすいまちというだけでなく、例えば、ある一定の職業（酒屋、伝統工芸など）の方を集めるなど、小さくても賑わいのあるコミュニティビジネスが栄えるようなことが、特徴的であっても良いのではないか。また、どういう街であれ、誇りを持てるまちにするというビジョンを市が示す必要がある。

郊外から高齢者が中心部に移り住んできている。2~3千万円だと思われるこの投資を、マンションではなく、伝統的なところに住むことに使ってもらうようにできないか。特に、スキルを持った方が集まれば地域づくりになる。京都の取り組みでは、コミュニティとしても観光地としても成功している。住むと同時に管理してもらうことで、街並みの保存にもなる。

マンションの林立などは税の問題もある。中心市街地の保護には、税制面も考慮した特区が考えられる。

マンションは老朽化する。スラム化を未然に防ぐ対策を講じること。

バスセンターなどの交通ターミナルに、生活機能（郵便局、銀行、図書館など）を持たせてはどうか。

街の「ギャラリー化」、 「ミュージアム化」を図ってはどうか。

街中のバリアフリーを推進する。

国が推進している「コンパクトシティ」と盛岡市が推進している「軸状都心構想」を両立させながら、まちづくりを進めることには限界がある。

< 交通環境 >

道路，公共交通，自転車，歩行者を含めた総合交通計画が必要。

市の都市計画と現実の都市交通をリンクさせ，都市機能を向上させる。

山田線を通勤通学に利用するなど，既にあるものの活用を考える。

中心市街地の活性化のために中心街に入ってくるバスの利便性向上や山田線の有効活用も検討すべきである。

お年寄りやタクシードライバーはタクシーを利用することが多く，公共交通として料金を下げることによって，より利用されるようになるのではないかと懸念されている。

自動車中心の考え方によるまちづくり・まちづくりは，非常に疑問。郊外は車でも良いが，中心部は自転車や歩くまちづくりを進めるべき。

トランジットモールの実験が行われるが，外から来る人が楽しめるのはもちろんだが，そこに住む生活者も一緒になって賑わいを作り，楽しさを共感することも必要である。

来県される方に良いイメージを持ってもらうためにも，小さくて暗い道路案内の表示を工夫して快適にする。

- バス -

利用者も入れて，バス業者と定期的な協議の場を持ち，多くの声が伝わるように努める。

市が行おうとしているまちづくり（高齢化社会，都市機能などへの考え方）をバス事業者に理解してもらうための場を設ける。まちづくりの方向に沿った形でバスを運行してもらう必要がある。

バスには，利用者サービスの更なる充実が必要である。例えば，各バス停に色付きの路線図を設置して見やすくしたり，行き先のボタンを押すと最寄りのバス停を音声や画面で知らせるシステムなど便利である。

冬季のバス停での待ち時間を念頭に，バスロケーションの機能を充実させる。

地理情報システム（統合型GIS）をバスの路線についても活用する。

ステップの高いバスが走る盛岡は，福祉のまちとは言えない。市はバス会社にワンステップが高いことや手すりがないことなどの問題点への対応を求めるべき。低床バスの導入など，高齢者，障害者でも使えるバスを望む。

金沢市ではフラットバスが観光バスの役割も果たし，城下町ではあるが，バスのサイズが小さく細い道も通行できる。盛岡市でも，参考にできるのではないかと懸念されている。

市として観光，福祉に力を入れていくという，アピールが感じられ，バスの運営だけを見れば赤字だが，他への波及効果が大きいと考える。

駅前のバスプールの鎖は，逆に障害になることもあり，積雪時の歩行には危険も伴うため，撤去してほしい。

交通渋滞がひどい館坂橋は，橋の架け替えが予定されており，工事の際にはますます渋滞がひどくなることが予想されるが，逆に，これを良い機会にバス専用道路として試してみてもどうか。

市がバス会社に補助金を出している分，バス会社にバスの利用促進に係るアイデアを出してもらおう。

車を規制しないとバスの利用は増えない。中心市街地の駐車場の税を上げてはどうか。

- バス（でんでん虫） -

観光客も高齢化しており，でんでん虫号の改善を望む。バス停に名所を記した地図のようなものを置くなど，親切な案内をすること。

でんでん虫号は，車内にリーフレットを置いたり，回数券機に保護カバーを付けたりするなど，利用者の声を反映して改善したところもある。

京都や神戸では，このようなバスには，はっきり分かるデザインを使っている。これがでんでん虫という色やデザインにしてほしい。

都心循環だけではなく，市内周遊ルートも設けてはどうか。ネーミングとか愛称も工夫する。例えば，でんでん虫から連想されるもの。

岩山の「漆芸美術館」など，アートに関するコースを設定して，バスで周遊できるようにできないか。市の施設だけでも，共通チケット制にする方法もある。

- バス（オムニバス） -

オムニバスは，利用者アンケートをとるなど検証すべき。批判もあるが良いと考える人もいる。誤解している人も多い。時間とともにあきらめのムードもある。

国のモデルどおりのオムニバスは効果が無い。地域の実情を反映すべき。

市場跡地のバスターミナルは利用されていない。見直すべき。

- 自転車 -

自転車は有効な交通手段であるが，街中に駐輪場が少なく，店の前に止めていると，駅前など違法駐輪になる場合もある。自転車で気軽に街中に来て，買い物ができるように，駐輪場の整備を考えてほしい。

放置自転車対策では，福島市が「自転車条例」を制定して，成功している例が

ある。(盛岡市にも条例あり)

- 駐車場 -

中心部には大型バスの駐車場が少ないので、祭りの際など、公的な場所を臨時駐車場として使えないか。(公園, 校庭など)

盛岡駅東口では、盛南大橋の下を駐車場として使ってはどうか。管理は駅前の方に頼むことも考えられる。

休日や夜などは、県庁や市役所の駐車場をもっと開放すべきではないか。

- 道路 -

盛岡の道路は、歩道との段差が大きく、他都市と比較してバリアフリーについての対応が遅れている。

今は自治体の財政難により公共工事の予算削減の流れがあるが、バリアフリーなど福祉に関わる工事もあり、分野にメリハリをつけた公共工事をしてほしい。

盛岡の道路は、ある地点から中心部を通過して目的地まで真っ直ぐ到達することができない。真っ直ぐな道路を一本通すべきではないか。

仙台などと比べると車での移動が不便に感じる。太い道路でも右折帯が無い。

盛岡は、独特の条件である寒冷状態の道路の悪さということを考えるべきで、仙台市などと同じようなことはできない。

盛岡駅前には県道と市道がつながっているところだが、メンテナンスなどで統一した窓口がほしい。

南大橋線は路線沿いのコミュニティや保存すべき旧市街地を壊す。都市計画道路を見直し、理念をつくること。

道路の十字路は、歩道を使うのか、地下道を使うのか、はっきりさせること。地下道を主として使わせるのであれば、エレベーターが必要である。また、仙北の地下道は看板が壊れているので、こういうことにすぐ対処しなければ、使いたくない地下道になってしまう。

道路の管理は、草取りなど地元で行うべきものもある。ごみの問題も含め、良い取り組みをしているコミュニティを表彰するなど、競争原理を導入すること。

信頼される質の高い行政

< 財政運営 >

税金がどういう使われ方をしているのか、分かりやすく説明する。特に、弱い立場にある人に関わる予算は十分に説明すること。

できることとできないことをはっきりさせて、市民に理解いただくよう声を掛けたうえで、痛みが伴うことも行っていく。財政難の情報も不十分である。

国の予算を報道機関が分かりやすく説明するように、市の予算にも解説を付けて市民に公表する。市のOBやNPOなど外部機関による説明・評価を実施してはどうか。

「ここに何メートルの道路を造るので、いくらかかります。」という内容を現場に掲示すれば分かりやすい。

財政が厳しい状況でも、必要なことは国に強く要望していく。

中心部の固定資産税を安くする逆ドーナツ型の課税評価をして、中心部の活性化を誘導してはどうか。

< 行政運営 >

形式にとらわれず、現場の状況をよく把握し、タイムリーに行動する。行政は少しでもリスクがあれば行動を起こさないが、市民のためになるのであれば、まず動いてみるという姿勢を望む。

職員自主研究グループの活動情報を公表する。

- 市民協働 -

市民公募や意見を求める場合は、熱意・意欲を持って集める。市民の反応が低調でも良いと考えているのか、市民がもっと来てくれるようにお知らせする努力も工夫も足りない。

市長とのまちづくりトークなど新しい動きも見えるが、人を集める姿勢がまだ弱い。また、市民参加を呼び掛けても、協働に関して、ある程度の結果が見えてこないと市民の多くは参加してこない。

市民と行政との協働事例を勉強する機会を設ける。市民は行政に任せきりで、行政は自前の計画を進めて市民から苦情を言われるという悪循環がある。

市民の生の声を聞く画期的な場である「新しいとびらを開く市民の会」を継続する。そうでなければ、ポーズに終わってしまう。

若い人が参加しやすい意見交換の場を設置する。

具体的なテーマを取り上げて、一般市民とそのテーマに関係するNPOや市の担当部署とが意見交換する場を設ける。

市民も金が無いのは分かっているので、行政が音頭を取り、イメージを市民にぶつければ、市民が取組む。グラウンドワーク手法の児童公園など、成功事例を広めれば、各町内が取組むようになる。地元のやる気が最も大事。

- 計画づくり -

これからつくる計画は、足元を見据えた、途中で振り返りや見直しができるものとし、過去の誤りも率直に反映させる。

計画を作り始める段階から市民に参加を呼び掛ける。計画案ができた段階で集められても、市民の意見を吸い上げるというよりは、計画の実行にYESと言わせるようなものである。

意見聴取をただのポーズとしない。計画について市民の意見を聞きますと言った時点で、実質的にはその計画は動かないものになっている。

地域住民がまちづくりを考えるためにも、市は、パソコン等のソフト面の講座だけでなく、まちづくりに関わるハード面の講座なども開催する。

様々な計画や住民との約束ごとは、必ず実施しなければならないものと行政も市民も考えているが、現状では行き詰まっているものも多いので、市民と本気で向き合い、見直す。

今以上の人口規模で市を運営するならば、雇用を確保できる工場等が必要と考える。市民が望む「まち」が大きいものか、コンパクトなものかを確認する。

- 各種会議 -

各種会議の内容を公表すること。市民の声を聞きましたというポーズに終わっている。

各種会議の委員は市から依頼された有識者で構成されている場合が多いが、それらの方々に負けない識見を持っている人も多いので、公募委員を今まで以上に増やす。

< 情報公開・広聴 >

情報公開が大きく遅れていることを認識する。市の姿勢は、非常に腰が引けているように見える。

情報公開室は、市民が気軽に立ち寄れるように1階に設ける。知りたいことが有る時だけ行くのではなく、いつでも気軽に行けることが重要である。

広報やホームページに載せるだけではなく、市民が知ることができるように、読ませる工夫をしなければ、情報公開にはならない。

率直で分かりやすい説明を心がける。また、話題になった時だけではなく、その後の調査結果も公表する。

各種の計画について、ただ公表するだけではなく、現時点での問題点等も含めて進捗状況を具体的に公表し、常時、市民が意見を言える状況をつくる。

施設の名称の決定など、市民がどの時点でどのように関わるべきだったのか、評価できるように、決定に至るまでのプロセスが見えるようにする。

市の様々な事業について、実施前に市民意見を聞く。後で修正するなど無駄な出費を防げる。住民票自動交付機の設置の際も事前に意見を聞くべきだった。

隠すから問題になるのであり、誤りを認めて直す勇気を持つ。誤りの指摘に対する行政側の対応の悪さ、遅さは大きな問題である。

事業の目標と達成度を数値で示す。また、施設のパンフレットに事業費や財源内訳を掲載する。市民にもコスト意識を持ってもらう。

情報公開を進める中で、文書管理の面もしっかり対応する。

- 情報発信 -

生活に密着した業績は積極的に外に出していく。市がどんなサービスを行っているのかを積極的にアピールすること。

受けられる制度、申請の仕方、公募などに関するお知らせを強化する。情報が必要な人ほど伝わっていない。

審議会などの委員の選考方法も含め、市の決定事項は一人でも多くの市民に知らせよう努める。

内容を説明するところまで行かないと市民のものにならないことを認識する。イベントや冊子の作成が、「やりました。作りました。」で、終わっていないか。

情報発信能力が弱いことを認識する。工夫する発想が無いのかと疑う。市民に知られていない取組みも多い。

市はPRが下手。イベントも他の部署、新しい施策を巻き込む工夫が足りない。携帯電話の広報的活用を充実させる。周知が足りない。

伝えたい情報を市民に浸透させようとするのであれば、例えば、住民票自動交付機に文字情報を流すモニターを取り付けるなどの工夫があって良い。

ケーブルテレビを利用して、人が集まる薬局などで市の行政情報を流してみてもどうか。

マスコミ報道の活用を図る。市民意識を喚起するような報道をお願いする。

市民は、市役所の仕事がよく分からないために、マスコミ報道などで市役所を

批判する記事を見ると，実際はそうではなくても，悪いイメージしか残らない。

市に責任の無い事を市民に言われた時にも，市は反論せず，言われっぱなしの場合が多いが，市として言うべきことはしっかりと言うべき。

- 広報紙 -

広報は読んでもらうことが大前提である。記事を書いたから市民に周知しましたとはならないことを認識する。

広報を情報源にしている人は多いが，現在の広報は読みにくく，高齢者の方々の多くが情報から取り残されているので対策を講じるべき。

年寄りにホームページは無理。本当に必要な情報に絞って，繰り返し伝えるよう努力・工夫する。

広報は，見る人の立場で作るべき。アンケート結果をどう生かしているのか。字の大きさは今のままで良いのか。読んで役に立つところはどこなのか。

タウン誌などに見られるキャッチー（魅力的）な紙面づくりを取り入れる。

記事掲載の要望が多いとは思いますが，結局，それぞれの記事が小さくなっており，読む側は目的の記事を見つけるのに，隅から隅まで探さなければならぬ。

市民は必要な情報を得たい。インデックス的なコーナーを設けて，広報紙では概要を紹介し，詳細な情報を必要とする市民には別な方法で知らせるのはどうか。

何を載せるのかについての整理も必要である。他の市町村の広報紙を参考にしなくてはどうか。有料の広報もある。

市が何をやろうとしているのか，事業がどう進んでいるのかといった行政情報を載せる。

意見交換できる場を設けるなど，広報紙上で双方向の関係を構築できないか。

広報掲載のボリュームを見ると，今のやり方では限界がある。紙面構成の都合で，タイムリーな記事掲載や目を引くコーナーづくりが無理なのであれば，お知らせ号・政策周知号的な分け方や高齢者向け号・女性向け号といった形で広報を発行する。

市民に向けて情報提供する場合は，分かりやすく，興味を持ってもらう工夫をする。十和田市の広報では病院や図書館などの行政サービスの評価を載せている。

地域を分けて発行する。市域が広すぎるため情報が詰込みになっている。

広報作成に参加する人を一般公募する。外部委託してはどうか。

読んでもらう広報にするべきであり，広報作成を民間委託して，競わせるという意味で輪番化してはどうか。

広報，教育，議会と3つの広報が発行されているが，一本化する。

- ホームページ -

市民と行政の関係を双方向の体制にする。ホームページに市民の提言，意見のコーナーが無い。現状の投書や電話では一方通行になっている。

双方向の関わり方ができるインターネットの活用は，市民参加のキーになる。

ホームページの情報は定期的に更新する。古い情報のままになっているものがある。

- 市民の声 -

市民からの意見は宝物である。苦情等も含めて，普段見落としてしまいがちな市民の小さな意見にこそ，改革・改善に繋がるアイデアがあると認識するべき。市民意見が事業を凍結することがあっても良い。

レストランなどでアンケート用紙を置いているが，そういうことを真似して，いろいろな場所で，随時，生の市民の意見を聞く。

提出された市民意見の採用の可否とその理由を具体的に示すなど，市民を市と協働する気にさせる環境づくりを進める。

質問や要望について，その場ですぐに回答できないものもあるだろうが，早い段階で市民に回答すること。分野によっては，5年サイクル，果ては20年サイクルで見直すと言われる。先送り体質を感じる。

住民意見を述べる場である地区ごとの懇談会に関する情報を各家庭まで下りるようにして，住民の積極的な参加を促す。

市主催の懇談会や議会などを平日の夜や土・日曜日に開催するなど，市民が参加しやすい時間に設定する。

< 組織・人材育成 >

リーダーシップによる組織の活性化を期待する。

外から見て，分かりやすい組織にする。上から見れば体制ができているだろうが，下から見るとわかりづらい。

市民の相談事を各担当課に振り分ける，市の全業務を把握している窓口的部署を設置する。市のOBなど経験豊富な方，十分な研修を積んだ方を配置する。

相談事から市民提案の実現まで，関係各課の間を交通整理する権限を持つ部署を設置する。業務の縦割りが原因で実現できないことが多いと感じる。

自分の管轄に縛られているのか，他への連絡など動いてくれない。どの部署が何をしているのか，知らないのではないか。

地域課題の中には地域で解決できることが多いが，それを地域でやりたいと自主的に手を上げてきた時に対応する部署を設置するとともに，そのような提案に

向けた予算枠を用意する。市民がお互いの経験を紹介し合い、問題解決の参考にするサイクルを作ることも有効である。テレビで紹介されている方策も多い。

利用者が少ない施設は統合していくべきではないか。

人事異動の影響もあると思うが、自分の課の仕事内容を十分理解していない職員が多い。教育が十分なされていない、業務に合わないと感じる人がいる。

情報は持っているはずと思うのだが、相談しても知らないことが多く、専門性がない。狭い担当業務だけではなく、関連事項についても見識を広めること。

市民の気持ちを理解するために、机上の教育だけではなく、現場に出て体験学習する。幅広く役所の仕事を知ること大事だが、業務の中には長期間に渡って、専門的に深く勉強したプロの職員が必要ではないか。

異業種との人事交流やサービス体験を実施する。

ぞんざいな言葉使いや横柄な態度を取る職員がまだいるので、研修を強化する。サービス意識に欠ける。

職員が担当以外の仕事に関わったときに、それも評価することが必要。余計な仕事に関わらないという姿勢は、市民サービスの低下を招く。

職員研修などで提案された良いアイデアを施策にいかす仕組みをつくる。

- 職員意識 -

自分たちの仕事は市民サービスだという意識を浸透させる。

市民が何を必要としているのかなど、想像力を働かせて仕事する意識付けをする。職員が自己変革意識を持つことが必要である。

市職員の多くは市内に在住する一市民であり、市民から出される意見と同じような考えを持ち、議論していると思うが、それが表に現われない。

市の職員は積極的に奉仕活動に参加して、奉仕の意味を理解すべき。

民間の厳しさが足りない。成果が出なければ、給与が下がるのは当然。

実際は違う部分もあるだろうが、市の職員は暇であると言われることについて、言われなくなるようにどう対応するかを考えるべき。

職員が楽しく、生きがいと誇りを持ち働くまちは、素晴らしいまちになる。

< 市民サービス >

市民は平日に休んで来ているという認識を持つ。対応が不親切に感じる。

意識改革を進める。市民サービスが、他市町村に比べて雲泥の差だと言われる。行政は最大のサービス産業という言葉が掛け声倒れに終わっている。

対応マニュアルを徹底する。一つだけ教えて、また次もあるという、一言一言が足りないケースが多過ぎる。

転勤した人間が一番最初に会う人は、市の窓口職員であると自覚する。第一印象が大きい。東北では山形市が立派であるというのが定評になっている。

証明書発行の 24 時間対応を是非検討いただきたい。需要は多くないと思うが、市民に対するサービスの姿勢を見せることになる。

市の施設はサービスレベルが低い。税金で運営しているので、お客さんが来なくても構わないという態度に見える。利用者を増やすという姿勢が感じられない。

施設管理者ではなく、サービス提供者という意識を持つ。開始時間きっちりではないと入れてくれないとか、職員の接客態度など、施設の利用時間や運営の仕方に柔軟性が無いと感じる。気軽に使えるように、ボランティアに施設管理を任せではどうか。

各施設を誰がどういう活動に使って良いのかを、あらためて市民に知らせる。例えば、老人福祉センターは、老人以外は使えないと思いついでいる人が多い。

新規に施設を利用する人には、電話の対応などに特に配慮することが大事である。壁を感じさせては駄目。

市職員OBは、行政経験をいかしたソフト施策に登用する。施設管理の分野より有効活用が図られる。

< 広域合併・地方分権 >

合併について、今まで以上に情報発信する。説明不足・情報不足を感じる。

「任意協議会だより」を見ると、組織・機構が先で、住民が置去りにされている印象を持つ。

市域が広がった場合は、公共交通機関、特にバス交通を充実させるべき。広いエリアをどうつなげるかが大事である。仙台市泉区では、市営バスと民営バスのルート設定がしっかりしていた。

町村部の狭い道路や利用者の高齢化に配慮したミニバスの導入を誘導する。

合併に際して、特定の地域に偏った投資はしない。

議員の報酬については、トータルを変えないで、議員歳費は安く、使途の報告を義務づけた政務調査費は高い設定にした愛知県豊田市の例を参考にする。

3 資料

(1) 設置要項

「盛岡の新しいとびらを開く市民の会」設置要項

平成 16 年 5 月 18 日市長決裁

(趣旨)

第 1 市民の多様な意見をまちづくりに反映させることにより，市民起点による行政経営の実現を図るため，盛岡の新しいとびらを開く市民の会（以下「市民の会」という。）を設置する。

(活動内容)

第 2 市民の会は，市政のあり方に関する様々なテーマについて意見を交換し，市長に提言するものとする。

(組織)

第 3 市民の会の会員（以下「会員」という。）は，公募に応じた者により構成する。
2 会員の公募については，別に定める。

(運営)

第 4 市民の会の開催に当たっては，会員が参加しやすいように日時及び場所を設定するものとする。
2 市民の会の会議は，自由討議の方式を原則とする。
3 会員の定数は，定めないものとする。
4 会員には，報酬を支給しない。

(提言の活用)

第 5 市長は，市民の会の提言を十分考慮して，今後のまちづくりを行うものとする。

(事務)

第 6 市民の会の事務は，企画部企画調整課において処理する。

(2) 募集要項

平成 16 年度「盛岡の新しいとびらを開く市民の会」会員募集要項

平成 16 年 5 月 18 日市長決裁

1 趣旨

市民の多様な意見をまちづくりに反映させることにより，市民起点による行政経営の実現を図るために設置した盛岡の新しいとびらを開く市民の会の会員を募集する。

2 活動内容

市政のあり方に関する様々なテーマについて意見交換を行う。意見交換は会員の参加できる時間帯の条件に基づきグループ編成を行い，実施する。

3 応募資格

次の条件をすべて満たす方とする。

盛岡市に住所を有する方

昭和 63 年 4 月 1 日までに生まれた方（16 歳以上）

4 活動期間

平成 16 年 7 月 1 日から同年 8 月 31 日までとする。

5 応募方法

応募用紙に必要事項を記入の上，郵送，ファクス又は市役所企画調整課に直接提出の方法で申し込むものとする。また，市のホームページの応募入力フォームへの入力でも受け付けることとする。

6 募集期間

平成 16 年 6 月 1 日（火）から同年 6 月 21 日（月）まで

郵送の場合は締切当日の消印有効とする。

7 募集人員

人数に制限は設けない。

8 応募用紙の配置先

市役所 1 階の窓口案内所，都南総合支所，青山，太田，築川，繋の各支所，飯岡，乙部の各出張所，松園連絡所，盛岡駅西口サービスセンター（マリオス 1 階）とする。

9 周知方法

広報もりおか 6 月 1 日号，ウェブもりおか，各報道機関（5 月 25 日～）への情報提供とする。

盛岡の新しいとびらを開く市民の会

参加者を募集します

盛岡市では、市民起点による行政経営の実現に向けた取り組みとして『盛岡の新しいとびらを開く市民の会』に参加していただける方を募集します。

募 集 要 領

活動内容

意見交換会への出席

市が目指すべき方向やまちづくりの目標について話し合ってください。

今年は、より良く暮らすためには、市政がどうあれば良いのかという観点から様々なテーマについて意見交換をお願いします。

いただいた意見や情報から市が行う仕事の目的をより明確にしていき、仕事の質を高め、市民の皆さまのより良い暮らしに結び付けていきます。

募集対象

盛岡市に住所を有する方で、昭和63年4月1日までに生まれた方

募集人数

人数に制限は設けません。応募があった時点で会員として登録します。

活動期間

平成16年7月1日 ~ 平成16年8月31日

参加できる時間等の条件に基づきグループ編成し、意見交換会を開催します。

応募方法

応募用紙に必要事項を記入し、下記へ郵送又は直接提出してください。

なお、Fax や市のホームページでも受け付けます。

担当 盛岡市企画調整課 計画係 電話 651 - 4111 (内線 3615・3619)

〒020 - 8530 盛岡市内丸 12 - 2

Fax 622 - 6211 / <http://www.city.morioka.iwate.jp/>

募集期間

平成16年6月1日(火)から同年6月21日(月)まで

郵送の場合は締切当日の消印有効とします。

(4) 応募用紙

「盛岡の新しいとびらを開く市民の会」 応募用紙

～ 住民起点の行政経営を目指して～

平成 年 月 日 提出

住所	〒(020 -) 盛岡市		
ふりがな 氏名		性別	男 ・ 女
生年月日	明治 大正 年 月 日 昭和	職業	社会人 ・ 学生
連絡先	連絡が取れやすいものをご記入ください。 <input type="text"/> 電話 <input type="text"/> F a x 1. 自宅 () () 2. 昼間の連絡先 () <input type="text"/> E - mail 3. 携帯電話 () ()		
活動できる 曜日と時間帯	例：水曜日(14 - 16時) 月曜日 (- 時) 火曜日 (- 時) 水曜日 (- 時) 木曜日 (- 時) 金曜日 (- 時) 土曜日 (- 時) 日曜日 (- 時) その他 () ----- *会の時間はどのくらいであれば構いませんか ()		
希望する 活動場所	例：市役所、青山地区活動センター *そこへ行く交通手段は何ですか () (徒歩・バス 自転車・バイク) (自家用車 その他)		
参加したい テーマ	希望するものを選んでください。数に制限はありません。 盛岡市で考えているテーマ 1. 安心できる暮らし 2. 快適な都市機能 3. 潤いのある教育・文化 4. 活力をつくる産業振興 5. 安全な暮らし 6. 自然環境との共生 7. わかちあう相互理解 8. 柔軟に対応できる行政 話し合いたいテーマ ()		
自由記載欄	上記に当てはまらないもの等ありましたら、ご自由にお書きください。		